

明舞ひまわり3周年

第3回ひまわり 配食サービスへの対応に議論集中 会総会開かれる

8月13日の理事会に続いて8月27日の日曜日午後、3回目の「NPOひまわり会」の総会が、残暑きびしい中にもかかわらず19名の会員の皆さんが参加し「明舞ひまわり」の食堂で開かれました。ほかにも事前にファックスやはがきでメッセージを寄せてくださった方が22名もあり、ひまわりの活動への関心の高さが伺えました。

2005年度の事業・会計決算報告ならびに2006年度事業計画案も承認され、活発な論議がかわされました。事業報告では、満3年を迎えようとするいま、ひまわりの存在は地域の高齢者をはじめ住民の生活の一部となっていること、とくに独居、虚弱者、老老介護の利用者へのサービスが増え、配食へのニーズが高くなっていることが報告されました。

会計決算報告では、食堂と野菜部門を合わせた営業収支では売上高は約840万円にのぼり、営業収支面では35万円ほどの赤字になっているものの、会員からの会費や寄付金、木口ひょうご地域振興財団の助成金などにより総額では黒字であることが報告されました。

今後の事業計画を遂行するためには、サービスの質の向上をめざしてボランティアの研修の機会をもつこと、同時にボランティアの健康管理を優先的に考え、過重な労働を少しでも軽減するために交代制や食器洗浄機の導入などの検討、増え続ける配食への対応策に議論が集中しました。



ひまわりの夏

相次ぐ学生の一日研修や見学



首都圏の多摩団地を調査研究している法政大学の現代福祉学部・人間社会研究科の保井ゼミの学生・教員21名が7月31日に明舞ひまわりに来店。8月8日には神戸大と愛媛大工学部の学生が一日研修に来店しました。

常連のお客様は若い学生に戸惑いながらも、すぐに和やかな雰囲気になりました。明舞団地の再生まちづくりの研修には「明舞ひまわり」は欠かせない存在になっているのかもしれない考え、昼と夕の配食の車に同乗してもらい、お年寄りの住む住環境や暮らしぶりについてもお弁当を渡しながら観察、誠実な研修態度でした。

「一日でいろいろなお年寄りに出会えたことは、なによりの収穫でした」と感想を語って、5時過ぎには明舞団地を後にしました。

「内臓脂肪」の予防に野菜を摂ろう

「高齢者の食べ物と栄養 PartⅢ」展開催

8月23日から26日まで明舞まちづくり広場で「高齢者の食べ物と栄養」展が開かれました。ひまわりとしては3回目、今年度の垂水魅力アップ事業の第一弾で、今年はいま注目されているメタボリックシンドロームの原因である「内臓脂肪」の問題をとりあげました。その予防として「野菜をとりましよう——1日に350gの野菜をとるために」と、やさしいバラエティに富んだ野菜料理のデモンストラーションと試食が人気を呼びました。

- ♪とうがんのえびあんかけ
- ♪かぼちやのポターージュ
- ♪ゴーヤのおかかあえ
- ♪ずんだのしらたま団子
- ♪定番の玄米赤飯
- ♪てんぐさゼリー

など身近な素材によるメニューに「こんな食べ方もあるんや」と目を細めて喜ばれるお年寄り、展示をカメラにおさめたり、メモをとる姿が目をはききました。

担当した大石さんは「試食をされながらの話は身近な毎日の食事の話題に発展し、『この料理で何カロリーですか』と質問されたり、レシピを持ち帰るなど、食をとおして多くの人にかかわれる喜びを味わいました」と語っています。

今年も多彩に垂水魅力アップ事業

昨年に引き続き、2006年度も「男性料理教室」(10-3月)「小学校への出前クッキングスクール」(11月)「クリスマスふれあいコンサート&食のフェスティバル」(12月)「新春餅つき大会」(1月)などを開催します。

今年の夏休みも学生が食堂応援

☀☀☀兵庫大学のV-net☺☺☺

春・夏の長期休暇を利用して「明舞ひまわり」に調理ボランティアとして応援してくれている兵庫大学の学生が、この夏も2名ずつ明るい笑顔を見せてくれました。

V-netは、震災直後県内の食物系大学・短大の学生でつくられたボランティアネット。学生の専門性をもっと生かされる受け入れをと思いながら、準備不足のまま今期も終わってしまいました。春までにはなんとか話し合っ、いい案を考えてみましょう。



ボランティアの声……

介護保険は救世主

か？

駐車違反を取り締まる駐車監視制度の導入が始まって、「ひまわり」の配食も二人乗車体制になりました。そこで、私も夕食の配食車に同乗することになりました。今まで調理ボランティアとして調理に専念し、お店に来られる病気を持ちながらも比較的元気な高齢者の方々と接してきました。

- しかし、配食を待っておられる各ご家庭は
- 共に病気を持ちながらも、家で過ごすのが一番と頑張っておられるご夫妻
 - 奥様の退院時に食事の手配に困りはてているご主人
 - 軽い認知症のご両親のために配食を頼みに来られた娘さん
 - ひとり暮らしを頑張りながらも調理が大変な高齢者の方々 等々……

テイクアウトが氾濫している今も、自分に合った食事を求めている高齢者の方々がいかにかに多いことか。みんなが支えあって、高齢者の自立のための介護保険であるはずなのに、食に対してもっときめ細やかな支えがなされないのでしょうか。

(太田倫子)